



さくらみ川

第四七号

平成十五年十月十五日

熱日高彦神社社務所

電話六二〇二四一 FAX六二四八六一

メール atuhitaka@hitaka.org

社頭に秋の深まり 菊花のご奉納

石川口の齋藤實さんが、参拝される方のためにと、丹精こめて育てた菊を二鉢お持ちになりました。毎年かざっていただいておりますが、今年はまた特別に立派です。冷夏のなか、さぞ気を使われたことでしょう。船岡の菊の祭典や市民文化祭にも出品されるそうです。どうぞご覧ください。

東北人スピリット

さわやかな秋空をながめればなおさらに、夏の天候不順が悔やまれてなりません。数年に一度の高い割合で冷害に襲われる当地ですが、今年は過去と比べても特に大変でした。

しかしまた、東北は「米どころ」といわれ、米の美味さでは関東以西の比ではありません。それこそ縄文の昔から、祖先は幾たびもの冷害を経験しながら、耐えに耐えて、高度な稲作の技術を培ってきたのです。言いかえれば、東北の高度な稲作文化は、冷害によって育まれたと言えます。

このことは、東北人の気質や心についてもいえます。我慢強い精神力と他者をいたわる暖かさは、厳しい風土に生きてこそそのものでしょう。そして、「今年こそは」というひたむきな祈りと、厳しささえも「感謝」の心で受け入れる謙虚さが、深く豊かな信仰をかたち創ってきたといえます。

さて、厳しい年でしたが、これからに向けた取り組みは足踏みすることなく進んでいると聞きます。安全で美味しいブランド米を作ろうという農家組合。後継者を育てる担い手事業など。行き詰まった農政や冷害などの困難をこそ強いバネとして、必ずさらなる発展をしてゆくと信じます。

今こそ東北人スピリットが発揮されるときです。

渥故知新

明るい社会は教育から

「教育勅語」の心を再び

島田 小野 勝さん

お気付きの方も多いと思いますが、農協枝野支所の事務所の壁に、縦長の和紙にていねいに墨書された「教育勅語」がかかげられています。でも、なぜいま「教育勅語」で、しかもここにあってでしょうか？これが掲げられた当時所長をなさっていた小野勝さんにお話しを伺いました。

今から五年余り前になりますか、私（小野勝氏）が枝野支所長をしていた時のことです。

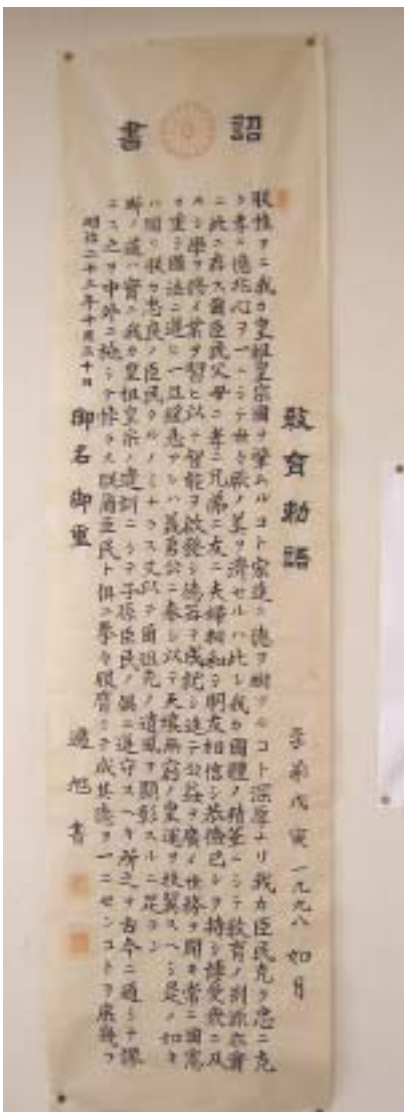
枝野の耕農組合（現農家組合）長の新年会の席で、数人が寄って世の中のことなど

語っていました。当時市内の荒れた中学校のことが問題になっており、「昔は『三歩下がって師の影を踏まず』と言ったのになあ」などの声がしきりでした。若い者の犯罪も増え始め、「駐在さんも大変だなや」という話題にもなりました。

その時ふと頭に浮かんで「昔、教育勅語というのがあった。内容ははつきり覚えてないが、確か本文三百十五文字で、あれには善い事がたくさん書いてあったなあ」と口に出しました。すると渋谷正隆さん（長沼）たちが「あんだも古いこと言っなや」と冷やかしながらもうなずいてくれました。

驚いたことにすぐ翌日、渋谷さんから連絡があり教育勅語の資料はないかといわれました。それで恩師から資料をお借りし、「コピー」してお渡ししました。数日して、ご自身で書かれた立派な「教育勅語」を六巻お持ちになられたのです。そのうち一巻をちょうどいいして支所にかかげたわけです。「支所に貼りたい」と言ったとき、渋谷

さんは「貼るな」と言っておられたが、「支所は枝野の農業活動のとりでだと思っ



ています。これからを担う人達が集まる場所にこそ是非貼りたい」とお願いし、了解していただきました。職員にも剥がさないよう申し送っておきました。

当時の社会のありさまを心配しておられて、だからあのときの話に共感して直ぐに「教育勅語」を書き上げられたのだと思います。はたして、世の中は良くなってきたのでしょうか。なおさら「教育勅語」のことが良く思えて仕方ありません。「古い」といわれるかもしれませんが、古くても善いものは善いのです。みんながもう一度「教育勅語」に書かれている善いことに気付いて、世の中が良い方向に進むように願っています。（記録/禰宜）

教育勅語について

「教育勅語」は明治二十三年十月三十日に煥發されました。勅語とは（旧憲法下に）天皇が直接国民に下賜するかたちでお示しになられたお言葉です。日本の西洋化が急激に進み、日本の伝統的美風が失われようとする時代背

景のなかで、「教育勅語」は明治天皇が自ら日本国の教育について国民にお示しになられたお言葉なのです。短文の中に、永く培われてきた日本人のあるべき姿や徳目がことごとく示され、しかも一方的な命令ではなく明治天皇御自ら「わたくしも国民の皆さんと共に」と宣言しておられる、実践道徳規範と言えるものです。以後敗戦まで、「教育勅語」は近代日本国民の人格形成の根本となってきました。

「教育勅語」は国際社会にも大きな影響を与えてきました。当時の最強国イギリスが日本と対等の日英同盟を結んだのは、日本がアジア最初の近代憲法を制定したことに共に、「教育勅語」により日本国民のレベルの高さを認められたためとされています。

また日露戦争終結講和の仲介をした米国大統領ルーズベルト(当時)はその動機として「教育勅語」に感銘を受けたことをあげたといわれています。そのほか現在でも「教育勅語」を徳育に生かす学校は海外にいくつもあるそうですし、「教育勅語」を模範とする政治家、文学的に高く評価する文学者も多いのです。

しかしながら日本では、敗戦後新しい「教育基本法」と「教育勅語」とを相補つたかたちで用いるはずだったにもかかわらず、占領軍の口頭命令により衆参両議会で「教育勅語」の排除・失効を決め

てしまいました(昭和二十三年六月)。それで「教育勅語」は戦後の民主国家にふさわしくないとというように誤解され、以後忘れ去られてしまいました。

そして今はどうでしょう。訳文をご覧になればおわかり頂けるでしょう。「教育勅語」とは全く反対の世の中になってしまいましたね。

今年の地区総代研修で霊山神社(福島)足立正之宮司からお聞きした話を紹介します。二十数年前、占領政策に関わったバーンスズ氏(米国)が次ように語ったそうです。「日本は私たちが仕組んだ以上の速さで壊れていっている。優秀な日本人を育成してきたのは教育だ。だから戦

後日本が弱体化するよう「教育勅語」を廃止した。早く「教育勅語」を復活しないと、遠くない未来に日本は自分から壊れて無くなるだろう」。なんとも腹立たしい話ですが、なぜ「教育勅語」が廃止されたか、何故こんな世の中になってしまったかが如実に語られています。

「教育基本法」は「教育勅語」に勝るものでなかった。「教育勅語」煥發当時と現代の状況は似ています。小野さんや渋谷さんのように、早く多くの人がこのことに気づき、日本の社会が正常化されるよう願います。お手本は先人が残してくれています。

教育勅語の口語文記

私は、私達の祖先が、遠大な理想のもとに、道義国家の実現をめざして日本の国をおはじめになったものと信じます。

そして、国民は忠孝両全の道を完うして、全国民が心を合わせて努力した結果、今日に至るまで、美事な成果をあげて参りましたことは、もとより日本のすぐれた国柄の賜物といわねばなりません。私は、教育の根本もまた道義立国の達成にあると信じます。

国民の皆さんは、子は親に孝養をつくし、兄弟、姉妹はたがい力を合わせて助け合い、夫婦は仲むつまじく解け合い、友人は胸襟を開いて信じあい、そして自分の言動をつつしみ、すべての人々に愛の手をさしのべ、学問を怠らず、職業に専念し、知識を養い、人格をみがき、さらに進んで、社会公共のために貢献し、また法律や、秩序を守ることは勿論のこと、非常事態の発生の場合には、真心をささ

げて、国の平和と、安全に奉仕しなければなりません。

そして、これらのことは、善良な国民として当然のつとめであるばかりでなく、また、私達の祖先が、今日まで身をもって示し残された伝統的美風を、更にいっそう明らかにすることでもあります。

このような国民の歩むべき道は、祖先の教訓として、私達子孫の守らなければならないところであると共に、このおしえは、昔も今も変わらぬ正しい道であり、また日本ばかりでなく、外国で行っても、まちがいのない道でありますから、私もまた国民の皆さんと共に、父祖の教えを胸に抱いて、立派な日本人となるように、心から念願するものであります。

明治神宮発行

明治天皇御製
教育勅語
謹解より抜粋

お日高さんの自然

針葉樹林のキノコ



スギの大木に生えていたスギタケモドキ

スギ林には、秋のはじめ頃、古株にスギヒラタケが層になってびっしり生えていることがある。この辺ではあまり歓迎されないが、セケ宿や山形地方では貴重な食菌として利用されている。時にはオシロイシメジなども列をなしている。思わぬ収穫にありつけることがある。今はスギエダタケが白い点々のように林全体に散在している。場所によってはクリタケなどもとれることがある。

昨年のことだが、神社のスギ林でセンシタケを採取し、九月半ばに行われた仙台市の科学館でのキノコ展示会の、めずらしい展示品としてつけ加えることができた。

さて、ここではくわしくはふれないが、松林には多くのキノコが生える。松の根と共生している種類も多い。マツタケはもちろん、アマタケなども人工栽培できないので共生菌と考えてよいのであろう。

仙南地方にはモミの木が混生している。里山が多いが、こんなところもキノコの宝庫の一つに数えられる。モミ林だけに限定すると、林下には、これからアカモミタケやヒメサクラシメジなどがとれる。ヒメサクラシメジは小型だが、歯ごたえが良く、汁物にはもってこいである。ムラサキシメジもすみかの一つにしている、収穫物の一つに加わることもある。

今年は米もキノコも不作であるが、来年への期待をこめて、敢えてキノコに思いをはせてみた。

(文ノ小島和夫氏)

社頭あれこれ

子供らに思いでつくり夏祭

当日は天気に恵まれ、夏祭を無事斎行できた。ご協力いただいた方々、ご参拝いただいた氏子・崇敬者の皆さまに感謝申し上げます。最も心配したのは奉納された紙灯ろうがぬれてしまうこと。今年は小学校児童、幼稚園児、はぐくみ学園利用者等に加え角田養護学校初等部児童も奉納してくれました。賑やかに飲みもの、やきとり、コーンなどをふるまってくれた方々。また恒例となつた打上げ花火も昨年以上に夜空を染めた。御礼を申し上げるしだいである。



《花火奉納者御芳名》(順不同 敬称略) 佐藤孝

- 一 佐久間正夫 菅野孝子(高瀬) 高橋
- 政信 富田正 佐藤勝征 赤坂誠 只野安
- 博 齋藤仁一 佐藤雅邦 齋藤秀明 齋藤
- 公一 齋藤勝雄 只野政義 寿司和 智寿
- 司 小形自工 山形屋 以上

これで安心 神輿殿お屋根塗替え

氏子有志の協力も得て

懸案であった神輿殿屋根の塗り替えが成された。神輿殿は大木の下に建っていることもあって屋根の汚れや傷みが目に見えてきていた。天候が安定している十月中旬に、と作業が進められ、足場工事から塗装まで延べ二日で工程であった。作業には総代のほか、石川口の赤坂照海さんが協力してくださった。心から感謝申し上げます。



〓お知らせ〓

お歳徳神さまに神璽

暮れにお配りする新年の神さま「お歳徳神さま」に、今年から「神璽」が押されます。



「お歳徳神さま」は、「御神像」「お正月さま」とも言われ、おおよそ宮城県固有の新年の慣わしとして、当地でも古くよりおまつりされてまいりました。当神社では従来、宮司の印をご神像下方に奉印しておりましたが、この度ご神威をあきらかにするため、神さまのおしるしである「神璽」を中央上部に奉印することに

致しました。現在奉製いたしております。暮れにお受けになられましたら、新しい年を祝福する神様として、各家庭の慣わしのとおり、どうぞ厳肅におまつりください。なお、伊具地区の神社のほとんどが同様にすることとなります。初穂料の変更などはありません。

島田・枝野の出土品がいっぱい

角田市資料館企画展



いま角田市郷土資料館に、枝野の郡山遺跡、郷主内遺跡、二島遺跡を始め下山の古墳、東根の貝塚など、当地の出土品がいっぱい展示されている。

「発掘された角田市・縄文時代から中世まで」という企画展。期間は九月二十四日から十一月十六日まで。中でも注目されるのが農業基盤整備に伴う発掘で出土した郷主内遺跡。四世紀にさかのぼる古墳で、貴重な出土品がいっぱい。東北で最古のものとなされ、間もなくまとめられる報告書は、大きな反響を呼ぶこと間違いなし。

発掘は一部の人たちが知るだけ。でもその価値は東北の歴史の上で大きな波紋を呼ぶほどのもの。

郡山遺跡でもう一つの話は、既に河北新報で紹介されたあぶみ瓦の合体。数十年を隔てて出土した瓦が、今度の企画展で集められて符合したもの。それで伊具郡山の瓦の形が明らかになった。

七五三おめでとう

七五三参りのご案内

- ・ ^{きとう}ご祈祷は11月中、随時受け付けております。
お電話にてご相談、ご予約ください。
- ・ 16日までの土・日・連休はご本殿^{ほんでん}で行います。
(雨天、寒い日は社務所です)
- ・ 特に11月15日は七五三当日祭となります。
- ・ 時間は9時から16時ころまでにご参拝ください。
- ・ お申し込みは 0224-62-0241社務所まで。
(黒須)

〓ご奉納・ご奉仕〓

四区 小形一男さん 樽酒(春祭)

一区 齋藤 實さん 菊花飾二鉢

一区 赤坂照海さん 屋根塗装奉仕

一区 佐藤庄一さん 新米

二区 目黒暢子さん なし

一区 赤坂 誠さん 新米(神田米)

各区 総代各位 夏祭神饌野菜

社 頭 曆

十月 一日 月次祭

四日 九月節句(旧九月九日)

十一月 一日 月次祭

一五日 七五三詣

一三日 新嘗祭

十二月 一日 月次祭

三一日 大祓 越年祭

編集後記

「温故知新」に小野勝さんから興味深いお話しをいただきました。取材では支所の皆さんにもご協力をいただきました。ありがとうございます。コノの写真を撮ろうと思っていたら、ちょうど佐藤副総代長さんが境内からスギタケモドキを見つけてくれました。これも神様のご縁でしょう。当社のホームページを開いて三年。これまで一万件ほどのアクセスがありました。近頃ホームページをたよりに参拝者や参観者が来られます。皆さまもご覧になってご意見などいただければ幸いです。 <http://hitaka.org>